

科目名		建築実務講座 (福祉住環境コーディネーター演習)			
担当教員		佐藤 静	実務授業の有無		○
対象学科		建築士専攻科	対象学年		1
必修・選択		必修	開講時期		後期
		単位数		時間数	
		72			
授業概要、目的、授業の進め方		超高齢社会に突入したわが国では、どの業界でも福祉住環境コーディネーターへの社会的ニーズが高まっている。これまで学んだ建築の知識に加え、医療・福祉についても体系的で幅広い知識を身に付ける。高齢者や障がい者に対してだけでなく、ユニバーサルデザインの考え方から、すべての人が暮らしやすい住環境整備を提案できるよう、事例を通して様々なパターンを学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		福祉住環境コーディネーター2級検定試験で合格を目指す			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		福祉住環境コーディネーター2級検定公式テキスト (東京商工会議所)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義			介護保険制度の概要、高齢者向け住宅施策の変遷から、福祉住環境コーディネーターの役割や職業倫理について学ぶ。	
2	障害のとらえ方と自立支援のあり方			ICFによる障害のとらえ方、地域包括ケアでのリハビリテーションと自立支援によるQOLの向上、在宅介護の現状と問題点を知る。	
3	疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方			認知症や骨折・精神障害など、様々な疾患別・障害別の身体状況を正確に把握し、自立した生活を支援するための福祉住環境整備について考える。	
4	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方			住宅改修の流れと相談支援体制を理解し、福祉住環境整備を進めるうえで連携する関連職の専門性とチームアプローチの重要性を学ぶ。	
5	福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識			段差の解消や手すりの取り付け、外出時や屋内移動等の生活行為別の整備手法、配慮すべき点など、図面のルール・構造や施工など建築の基礎知識とともに身に付ける。	
6	在宅生活における福祉用具の活用			各種福祉用具の名称や活用方法、介護保険制度の対象となる範囲を知り、住宅等への導入にあたっての概要を把握する。	
7	事例の紹介			高齢者だけでなく事故による後遺症などで、どの年代にも起こり得る身近なことだと実感させ、より具体的な事例を紹介し、理解を深める。	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	模擬試験	小テスト	建築物に携わる業界では必須の内容です。世間のニーズに対応できる実践的な知識を身に付け、提案できるようになりましょう。	
10 %	%	90 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		一級建築士・福祉住環境コーディネーター1級として、住宅設計に10年携わる。			